

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北関東)	◎	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の5類移行から、仕事量が増えたため、やや良くなっている。
	◎	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・中国の団体旅行も解禁となり、法人ではなく、個人のインバウンドが多くなっている。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の5類移行後、初めて迎えた夏休みであったため、売上は新型コロナウイルス感染症発生前の水準に少し欠ける程度にまで回復が続いている。ただし、働き手不足のため、売上の機会損失がある。
	○	一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・地域で祭りがあったので、幾らか良くなっている。
	○	百貨店（店長）	来客数の動き	・7月まで前年を下回っていた来客数が、8月に入り、連日前年を超える状況に回復している。今後もこの来店傾向が続く。
	○	百貨店（店長）	販売量の動き	・前年比で売上、来客数共にプラスになるも新型コロナウイルス感染症発生前の水準には戻っていない。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・前年比で売上は104%、来客数は103%、客単価は102%で推移している。客数、単価共に伸びて、売上増加で推移している。平日夜の来客数は新型コロナウイルス感染症発生前には大きく及ばないが、平日の工事関係者や土日の行楽車両の増加が顕著にみられるようになっている。
	○	衣料品専門店（統括）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症対策により、全国で人の集まること、特に祭り等は中止になっていた。祭り用品の商売上は大変な問題だったが、今年は何とか商売ができるような状態になっている。この3～4年のうちに、閉店する店もかなりあった。今年の夏祭りは各地の市町村で盛大に行われている。
	○	乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・当店は観光地に立地しているが、観光客がものすごい勢いで増加している。当店の客が口々に「客の来場が多くなって、とにかく忙しい」と言っている。それにつられて、当店でも新車や中古車の販売台数は少ないものの、整備関係の入庫台数がうれしい悲鳴が出るほど増加している。実感的にやや良くなっている。
	○	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	お客様の様子	・来店する客の表情は明るく、声のトーンも大きくなって、滞在時間も長くなっている。お酒の席が当たり前の光景に戻ってきている。
	○	一般レストラン（経営者）	単価の動き	・アフターコロナで祭りや帰省といった人が集まる機会が多くなり、宴会やテイクアウト注文等が多く入っている。しかし、企業からの注文は予算が低下しており、値切られることも多い。こちらとしても材料費が上がっているため、新型コロナウイルス感染症発生前と同じ「いつもの内容」を出せず、ギャップが埋まらない感はある。
	○	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・着実に販売量、来客数は増加している。
	○	旅行代理店（所長）	来客数の動き	・お盆時期の台風は結構な影響が出たものの、外国人客の来訪も右肩上がり、日帰り客のほか、宿泊者の割合も増えてきている。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・週末の売上は、以前よりも良くなっている。ドライバー不足の影響もあるが、10%以上伸びている。9月19日から料金の値上げがあり、2割程度上がるため、またしばらくの間は客離れが予想される。
	○	タクシー（経営者）	お客様の様子	・全体的に動きが良くなり、前年同月と比べて19%の増収である。
○	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・海外の旅行客が増えていることから、各業界の来客数は当然増えているが、国内の物価高の影響から、国内需要は富裕層以外は停滞気味である。	
○	テーマパーク（職員）	販売量の動き	・アフターコロナにおける旅行等の外出機会が増え、来園者も増加しているが、全国旅行支援の終了と猛暑や台風等の影響も加わり、来客数は大きく回復していない。	

○	美容室（経営者）	来客数の動き	・4年ぶりに夏祭りが開催され、外出が制限されていた反動で記録的に人出が多かった。模擬店には食品を求めて長蛇の列ができており、キャッシュレス決済に対応した店も増えている。
○	設計事務所（所長）	来客数の動き	・問合せが増えている。
○	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・高齢層の客が多くなり、終活の一環としての資産整理が増加傾向にある。販売物件の仕入れが増えれば、売上増加が見込める。
○	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・景気が良くなったというほどではないが、客からの問合せが徐々に増えている。また、店舗等についても契約になる物や引き合い等が少し増えてきている。良くなったとまではいえず、まだ何ともいえない。
□	商店街（代表者）	お客様の様子	・猛暑のなか、街のイベントは過去最高の人出でにぎわったが、物価高の影響による節約志向もあり、来店する客は少ない。景気は相変わらず良くはない。
□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症が落ち着いたようにみえるが、また少し新規感染者数が増えている。皆がマスクを手放せない状態なので、人の動きは少し加減されている。イベントも復活してきたが、当地でも毎日のような猛暑のなかでは、余り人の動きはない。
□	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・人流拡大に伴い、引き続き化粧品、アパレルといった商品群は堅調である。しかし、食料品の相次ぐ値上げにより、生鮮、グロサリーの不調が目立ってきている。
□	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・特段、売上に大きな波はなく、今後も動向は読めない。
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・既に数か月変わらず、新車や中古車等の販売が低迷し、その分を車検などの整備売上でカバーする状況が続いている。
□	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・暑気払いなど団体の宴会が動いているなか、少人数の個人客の動きも活発になっている。ここ2～3か月の動きは横ばいである。
□	通信会社（社員）	単価の動き	・生活用品や食料品等が値上がりしているが、個人的には生活費を見直すきっかけとなっている。給与水準も上がっていけばよいが、企業努力だけでは限界があると思うので、政府や行政の継続的な支援を期待している。
□	通信会社（局長）	お客様の様子	・世の中ではいまだに原材料の価格高騰が続いており、取引先でも原材料の価格高騰で、物価高になっているという情報が入っている。
□	競輪場（職員）	単価の動き	・来場者の売上単価は、レースのグレードにもよるが、伸びていない。
□	その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	それ以外	・ガソリン価格高騰等の整備工場への影響は改善されない状況にある。加えて深刻な人手不足があり、事業縮小に向かう傾向にある。
□	その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	来客数の動き	・酷暑の影響で、主に空調関連への問合せが続いている。3か月前と余り変わらない。
▲	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・このところのガソリン価格の高騰、食料品の物価高から、ふだん使いの食品の売上は厳しい状況が続いている。今後もその傾向の改善がみられる気配はない。非食品エリアは、化粧品の好調が続いており、アイテム間での好不調の差が激しい。
▲	スーパー（商品部担当）	来客数の動き	・商圈内に競合店の新規オープンがあり、来客数が減少し始めている。
▲	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・8月は猛暑で暑い日が続き、冷たい飲料、アイスクリーム、冷たい麺類等が数多く出ている。
▲	衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・ただでさえ暇な2月8月といわれているなかで、今年の猛暑による外出控えが相当効いている。今月は年金給付月だったが、中旬にやや人の流れがあつたかなというくらいで、本当にどん底を過ぎたような悪さである。

	▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・販売量は前月比で74%、前年比では97%となっている。内容としては猛暑にもかかわらず、エアコンが前年の95%と振るわず、新型コロナウイルス感染症関連の給付金で需要を先取りした分が影響しているのではないかとみている。冷蔵庫は80%、洗濯機が90%、テレビは75%と大きく前年を割っている。
	▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・受注が減少しており、受注残が増えない状況が続いている。
	▲	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・3か月前と比べて、人の動きや販売量等は特段大きく変わらないが、購買意欲は若干薄らいできた感がある。
	▲	住関連専門店（店長）	来客数の動き	・物価上昇による買い控えとガソリン価格の値上がりの影響で、来客数が微減である。
	▲	住関連専門店（仕入担当）	来客数の動き	・相変わらず、来客数は前年割れが続いている。特に、8月は猛暑の影響で日中の客足が鈍く、月末になってもその傾向は変わらない。
	▲	その他専門店 [靴小売業]（経営者）	単価の動き	・夏のバーゲンセールにより単価はダウンしている。連日、熱中症対策の報道等が出るので、高齢者は家に籠もりがちになっている。
	▲	一般レストラン（経営者）	それ以外	・ガソリン価格の高騰が、客足にも影響してくることが心配である。インボイス制度もどう影響があるか予想が付かない。
	▲	その他飲食 [給食・レストラン]（総務）	単価の動き	・事業所給食部門においては、食材費、諸経費の上昇が厳しく、単価上昇等を取引先に受け入れてもらっているものの、吸収しきれない状況が続いている。経費節減等に取り組んでいるが、収益面の改善には時間が掛かる。
	▲	通信会社（総務担当）	お客様の様子	・削れない食費、光熱費、交通費等がことごとく値上がりしており、通信費はプランやキャリアの変更で下げ余地があるため、自分でプラン変更できない中高年客が来店し、説明を求めた上で変更する件数が増えている。電話の端末は壊れるまで使うので、廉価商材を案内しても機種変更は見送られている。
	▲	ゴルフ練習場（経営者）	販売量の動き	・電気代やガソリン価格等が値上がりしているなかで、昼間の気温が35度を超す暑さのため、外出が控えられている。
	▲	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・猛暑の影響により、来場者数が減少している。
	×	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・高温過ぎる猛暑日が続いたため、来客数が少なく、売上も最悪である。
企業 動向 関連 (北関東)	◎	—	—	—
	○	輸送用機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・今月も来月も計画どおりとまではいかないまでも、生産が戻ってきている。
	○	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・海外からの雇用も増えているようで、入居率が安定している。
	○	司法書士	受注量や販売量	・一過性かもしれないが、少し良くなっている。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・この猛暑のなか、目標どおり推移している。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年であれば、9月から年末にかけて、増産が始まるが、今年は全くない。通常かそれ以下になっているため、やや厳しい。
	□	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・猛暑と電気料金高騰により、省エネ家電のエアコン、冷蔵庫、サーキュレーター等の輸送は前年並みの物量となっている。しかし、九州、関西方面の豪雨や台風による災害での車両不足と燃料価格の高騰により、運賃は割高となっているため、車両コストに苦勞し、利益は薄くなっている。
	□	広告代理店（営業担当）	競争相手の様子	・設立から40年以上の地域でも老舗の同業他社が倒産した。広告出稿量が増えない状況がいまだに続き、厳しい状況に変化はない。

	□	経営コンサルタント	それ以外	・経済産業界及び一般生活者の感覚では、コロナ禍の雰囲気はほとんど解消に向かっている。企業の生産活動や個人消費も平時に戻った感があり、こうした面でも企業と個人の行動が制約されている状況は確認できない。ただし、一部企業で設備投資に活発な面もみられるものの、全体的には生産や販売の活動が上向いたとは認めにくく、飲食店等の客の戻りも期待されていたほどではない。
	□	社会保険労務士	取引先の様子	・賃上げやボーナス増加の景気への好影響は、期待していたほどではない。
	□	その他サービス業 [情報サービス] (経営者)	受注量や販売量の動き	・特段変化はみられない。
	▲	窯業・土石製品製造業 (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・今は何でも値上がりしているので、単価に反映するのが難しい。
	▲	一般機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・自動車向けに関しては堅調を維持しているが、特に、産業用ロボット向けの仕事について内示を大きく下回る急ブレーキが掛かり、対応に苦慮している。
	▲	一般機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・ガソリン価格や原材料費の度重なる値上げで、消費者マインドだけでなく生産者側の気持ちも、マイナスイメージしか出てこないことが残念である。
	▲	輸送用機械器具製造業 (経営者)	取引先の様子	・全ての取引先が、8月は10日くらい連休があるため、売上は非常に落ちている。稼働日の少なさの影響である。
	▲	不動産業 (管理担当)	それ以外	・燃料費の値上がり止まらないため、経費が増加し、利益が減少している。電気料金や資材も値上がりしているため、やや厳しい。
	×	建設業 (開発担当)	受注量や販売量の動き	・公共工事主体で売上の95%を占めている。今期発注額は前年比で15%増加だが、前々年との比較では19%減少であり、全体的には厳しい。
雇用関連	◎	—	—	—
(北関東)	○	人材派遣会社 (経営者)	求人数の動き	・食料品関係の価格がかなり高騰しているなか、電気料金等の値上がりもあり、多少、商品を選ぶ、材料を選択するといった荷動きがみられたようである。かなり高温な日が続く、気温の上昇等で傷みがちな食料品等もあったと思う。夏休みもあったので、ドリンク関係、飲食店の動きは好調である。
	○	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数の前年同月からの増加率が、3か月前から徐々に大きくなっている。
	○	学校 [専門学校] (副校長)	求人数の動き	・現時点での求人倍率が、前年は2.7倍であったのに対し、今年は3.8倍となっている。明らかに、あらゆる業界で人手不足であるため、賃金も上昇し、それが消費につながっている。
	□	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・企業からの募集依頼に対して、人材不足の状態が続いている。
	▲	人材派遣会社 (管理担当)	求職者数の動き	・求職者の多くは正社員を希望しており、派遣希望者は減少しているため、やや悪くなっている。
	×	—	—	—